

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献できる名実ともに日本一の美術・デザイン系専門高等学校をめざす</p> <p>1 造形活動を通じて学力と表現力を育み、高度な知識・技能を身に付け、造形文化の発展と創造に寄与する態度を育成する。</p> <p>2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。</p> <p>3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「文化都市大阪」の発展に寄与する。</p>
---

2 中期的目標

<p><b>1 造形活動を通して、「確かな学力」と「プロデュース力」、「発信力」の育成</b></p> <p>(1) 造形活動を通して、造形表現に必要な「確かな学力」、「プロデュース力」、「発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 1年次より、ポートフォリオ等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「家庭学習強化週間」等を通じて自学自習の習慣を身に付けさせる。学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。</p> <p>イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。</p> <p>ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させ、「プロデュース力」、「コミュニケーション力」、「発信力」の育成を図る。また、読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。</p> <p>エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修を充実する。</p> <p>※ 授業アンケートにおいて「授業内容に興味・関心をもつことができたか」について肯定的回答（平成29年度78%）を、2020年度には90%に近づける。</p> <p>※ 「発信力」の育成について、卒業時にはすべての領域の生徒がICT機器を活用するなどして、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。授業でのICT機器活用（平成29年度は2,492時間）を毎年3%引き上げて、2020年度には2,723時間に増加させ、その後も維持していく。</p> <p><b>2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人を育成する進路指導</b></p> <p>(1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。</p> <p>ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、文部科学省の専門高校の振興方策である「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の指定獲得をめざす。</p> <p>イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度等を「進路情報等に関するアンケート調査」にて検証し、進路指導の充実を図る。</p> <p>ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。</p> <p>※ 進学希望者講習への参加者（平成29年度129名）を平成31年度には150人に近づけ、2020年度以降も維持する。</p> <p>※ 造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、部活動加入率100%（平成29年度入部率110%：兼部による）を維持していく。また、「高校展」等のコンクール出品数（1、2年生の出品率50%）を維持していく。2020年度においても現在の水準を維持する。</p> <p>※ 部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p> <p>※ 卒業時に行う「進路指導等に関するアンケート調査」において満足度が平成30年度は90%となるようにし、2020年度においても維持する。</p> <p><b>3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校としての役割</b></p> <p>(1) 府立学校唯一の美術系専門学科校として、センター的役割を果たしていく。</p> <p>ア 美術系専門学科校として、施設設備・教員力・美術系大学等との連携を生かした活動を促進する。校内・外における生徒作品等の展示や、各種コンクールへの出品を通じて、その成果を発信する。</p> <p>イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、活動の拡充を図る。</p> <p>ウ 府立高校で唯一の美術系専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。</p> <p>※ 校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を図る。2020年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修も含め5回以上実施する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「発信力」の育成 創造的活動を通して、「確かな学力」と「プロデュース力」	(1) 造形表現に必要な「確かな学力」、「プロデュース力」、「発信力」の育成 ア 学力診断テストの活用 イ 実技力の向上とICT機器の活用 ウ 言語活動の充実 エ 美術文化への理解	(1) ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。難易度の異なる学力診断テストを、年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を理解させる。 イ 造形活動に必要な「圧倒的な実技力」を身に付けさせるため、実技講習の充実を図るとともに、調べ学習等を積極的に採り入れるために、ICT機器の活用を促進する。 ウ 読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を拡充する。 エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた美術文化への理解を深める。	(1) ア・授業アンケートにおける学習取組度 85% (平成 29 年度は 80%) イ・授業の ICT 機器利用 3% 増。 (H29 は 2,492 時間) ウ・学校教育自己診断における発表機会の肯定的回答 80% 以上 (平成 29 年度は 80%) エ・外部講師による講座 10 回実施。 (H29 は 14 回) ・海外、国内の作品に触れる機会を設ける。 (5 回実施 H29 は 8 回)	
2 美術・工芸・デザイン 進路指導 の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する	(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する ア 高一大・専連携講座や講演を充実 「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」獲得に向けた準備 イ 生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する	(1) ア 大学・専門学校の講師等による「美術造形の学びを将来の職業に生かす」ことをテーマにした講演を実施する。さらに、「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」獲得に向けた準備を進めていく。 イ 生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として進路実現に向けた進路指導體制の強化。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導が個別の進路決定に役立ったかを調査し、その分析を進路指導の充実に活用する。部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。	(1) ア・講座参加生徒数 500 名以上。 (H29 は 532 名) イ・進学希望者講習の受講者数 132 名以上 (H29 は 126 名) ウ・進路指導満足度 80% 以上。 (H29 は 83.6%) *H28 は未実施 ・希望進路達成率 90% 以上。 (H29 は 93.1%)	
3 美術・工芸・デザイン教育のセンター校としての役割	(1) 府立学校唯一の美術系専門学科校として、センター的役割を果たしていく ア 広報活動の充実 イ 学外展への積極的出品参加を促進 ウ 学校の専門施設設備の充実、海外交流の促進	(1) ア 美術専門学科設置校としての教育資源を活かした活動をHPで発信し、美術教育の振興を図るとともに、校内・外の展示を充実する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加することにより、さらなる意欲・実技力の向上を図る。 ウ 専門施設設備の維持管理、更新と充実により、生徒の造形活動の伸長につなげる。また、外国の学校との交流の回数を増やし、国際理解を深めていく。	(1) ア・HPの更新 100 回以上 (H29 は 98 回) イ・出品者数の維持 (高校展 260 名以上) (H29 は 284 名出品) (芸文祭 210 名以上) (H29 は近総文大阪大会開催のため芸文祭は中止) ウ・計画的に施設設備の維持更新を行う。国際交流の 2 回以上	